

高齢化社会になり、誰もが癌のリスクを負う時代になりました。癌の種類やステージ、患者の年齢や合併症の有無によって違いはあります。ですが、基本的には医師は「積極的な治療」を提案します。それは手術、放射線治療、化学療法の3大治療を指します。最近、これらは積極的治療を断るという選択をする患者さんが多くなっています。

Vol.133

院長 関の

Face to Face

2019年7月1日発行

とうびよう 癌と戦わない…逃病という選択



雑誌アエラが20代～60代までの現役医師553人にアンケート調査をしたところ、自分が四期の癌と診断されたらどうするかという問い合わせてきました。それは手術、放射線治療、化学療法の3大治療を指します。最近、これらは積極的治療を断るという選択をする患者さんが多くなっているようです。

少しでも楽しい時期を過ごしたいという理由からです。医師自体がこのような意識のままから、患者が同じように選択することは当然のことと言えるのではないでしょか。積極的治療に39%と56%だそうです。和ケア」で、癌の種類によつて何より自分の死生観を持つ、自分にとつてより良い最期の迎え方をイメージしておこなうことが大切なではないでしょうか。 ◇

関修一（せきしゅういち）

代替医療の総合治療院としての確立を目指す。タイトルのface to faceは「患者さん自身と向き合って患者さんの症状と闘う」ことを願つてつけた

※毎月一日の発行です

健育会 東銀座整骨院・整体院・鍼灸院 院長